

21世纪大学日语教材

基础日语

(四)

徐敏民 主编

复旦大学出版社

21 世纪大学日语教材

JICHURIYUJICHURIYU

基础日语

(四)

徐敏民 主 编

复旦大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

基础日语(四)/徐敏民主编. —上海:复旦大学出版社, 2008. 9
(21 世纪大学日语教材)
ISBN 978-7-309-06196-3

I. 基… II. 徐… III. 日语-高等学校-教材 IV. H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2008)第 110937 号

基础日语(四)

徐敏民 主编

出版发行 复旦大学出版社 上海市国权路 579 号 邮编 200433
86-21-65642857(门市零售)
86-21-65100562(团体订购) 86-21-65109143(外埠邮购)
fupnet@fudanpress.com http://www.fudanpress.com

责任编辑 黄昌朝

出品人 贺圣遂

印 刷 上海华文印刷厂
开 本 787×960 1/16
印 张 11.75
字 数 230 千
版 次 2008 年 9 月第一版第一次印刷
印 数 1—5 100

书 号 ISBN 978-7-309-06196-3/H·1235
定 价 28.00 元

如有印装质量问题, 请向复旦大学出版社发行部调换。

版权所有 侵权必究

前 言

《基础日语》(四)是上海普通高校“九五”重点教材之一。经过2年试用,不断完善,精益求精,终于出版问世。本教材的编写,倾注了华东师范大学日语系广大师生多年的心血。在编写过程中,得到日本东海大学北村洋教授的热情指导,对本教材进行了全面修改。因此,《基础日语》(四)可以说是中日两国学者共同努力的结晶。本教材具体特色如下:

1. 本教材结构新颖、题材广泛、形式多样,具有较强的独创性、系统性和实践性。
2. 本教材打破以语法为核心的传统的教学体系,通过学习随笔、评论、小说等各种题材,拓宽学生的语言知识,为理解异国文化打下基础。
3. 本教材注重培养学生的创造性思维能力,要求学生在掌握课文内容的基础上,进行课堂讨论,并以书面形式加以归纳。
4. 本教材力图通过各种语言素材,将听、说、读、写、译融为一体,培养学生的综合语言运用能力。

本教材以大学本、专科2年级学生为主要对象,同时也适用于广大日语学习者。教学安排为每周6~8学时,每学期120个学时左右,掌握词汇约4000个。附有句型、词汇一览表,并备有录音带。

本教材的主要内容与基本结构如下:

1. 本教材由12课组成。每课设有“课文”、“阅读文”、“词汇说明”、“句型说明”、“休息园地”、“日常会话”、“小知识”等7个部分。
2. “课文”以介绍日本社会国情为核心,旨在通过文章阅读,理解课文中的内容知识以及出现的词汇、句型,并要求口头表达与书面归纳。
3. “词汇说明”是学生日语学习的重要环节,通过细致的“词汇说明”,培养学生辨析及正确使用词汇的能力。
4. “句型说明”尽量避开繁杂的语法知识,以大量的例句加以说明,并要求在掌握的基础上完成例句。
5. “休息园地”通过学习日本常用的惯用句,了解日本语言与文化的关系,以提高学习者的兴趣。
6. “日常会话”以贴近日本生活的某一话题为中心,旨在通过简短的对话,增强学生的语言交际能力。
7. 本教材附有《基础日语练习册(四)》,由听力理解、词汇、综合填空、日汉互译、

阅读理解等9部分综合语言技能试题组成。

在编写本套教材过程中,得到日本枅田教育财团会长枅田政治先生的大力支持,对此表示衷心的感谢!同时,对日本东海大学北村洋教授、华东师范大学日籍专家西野典枝先生的热情指导,以及复旦大学出版社社长贺圣遂、编辑黄昌朝先生的鼎力协助,在此一并表示深深的谢意!

精读日语基础教材的编写,是一项十分重要而又艰巨的工作。8年来,我们饱尝了其中的艰辛。其中《基础日语》(一)、(二)已被评选为2006年度上海市精品课程。本套教材的全面推出,若能为日语基础教材的研究开发添砖加瓦,我们将深感荣幸。同时,我们恳请广大读者多提宝贵意见,使本教材在实际使用中日臻完善。

徐敏民

2008年7月5日

目 次

第一課 親友	1
本文 親友	2
言葉の使い方	6
説明Ⅰ	9
説明Ⅱ	13
休憩タイム	13
ミニ会話	14
豆知識 日本人の国民性	14
 第二課 ア이스キャンデー売り	16
本文 ア이스キャンデー売り	17
言葉の使い方	21
説明Ⅰ	23
説明Ⅱ	25
休憩タイム	26
ミニ会話	26
豆知識 桜と菊	27
 第三課 猫の動物学的宇宙誌	28
本文 猫の動物学的宇宙誌	29
言葉の使い方	33
説明Ⅰ	36
説明Ⅱ	38
休憩タイム	38
ミニ会話	38
豆知識 華道	39

基礎 日 語 (四)

第四課 パソコン通信というコミュニケーション	40
本文 パソコン通信というコミュニケーション	41
言葉の使い方	44
説明Ⅰ	47
休憩タイム	49
ミニ会話	49
豆知識 日本画	50
 第五課 季節	51
本文 季節	52
言葉の使い方	56
説明Ⅰ	58
休憩タイム	60
ミニ会話	60
豆知識 国民性	61
 第六課 不眠症	62
本文 不眠症	63
言葉の使い方	66
説明Ⅰ	68
休憩タイム	72
ミニ会話	72
豆知識 地域差の大きい「日本人の伝統行事」	73
 第七課 理性としての眼	74
本文 理性としての眼	75
言葉の使い方	79
説明Ⅰ	81
休憩タイム	84
ミニ会話	84

豆知識 村八分	85
第八課 アクロポリスと石ころ	86
本文 アクロポリスと石ころ	87
言葉の使い方	91
説明Ⅰ	93
休憩タイム	95
ミニ会話	96
豆知識 日本庭園	96
第九課 鞆	97
本文 鞆	98
言葉の使い方	104
説明Ⅰ	106
説明Ⅱ	109
休憩タイム	110
ミニ会話	110
豆知識 根回し	110
第十課 ほおずきの花束	112
本文 ほおずきの花束	113
言葉の使い方	119
説明Ⅰ	121
休憩タイム	123
ミニ会話	123
豆知識 歌舞伎	124
第十一課 一枚の葉	125
本文 一枚の葉	126
言葉の使い方	130

基礎日語(四)

説明Ⅰ	133
休憩タイム	135
ミニ会話	136
豆知識 落語	136
第十二課 日本文化の雑種性	138
本文 日本文化の雑種性	139
言葉の使い方	146
説明Ⅰ	148
説明Ⅱ	150
休憩タイム	150
ミニ会話	150
豆知識 「畳」	151
文型リスト	152
単語リスト	154

1

第一課 親友

例文

1. 知美とて、麻子がいちばん遅いに違いことは認めざるをえなかった。
2. どうせなら、早く済んでくれないかしら。
3. ろくに努力しなくても、クラスの中心的存在になる。
4. なんとか友達になろう。
5. 結局、どこもない努力を続けて、笑われる。
6. もしかすると、気取る必要がなくて、気が楽だったろう。
7. 朝早いうちにやってくれば、まだそんなにきていないのに。
8. ただ自分と同じくらい走るのが遅いというだけで、親しげに声をかけてみたりする。
9. こつちのことなんか、ほっといてくれればいいのに。
10. せめて、みつともなくないくらいの差でゴールに入る。
11. ひざくらいはすりむくに決まっている。
12. 教訓めいた批判を加えることだってできる。

本文

親 友

★ 読む前に

1. 友達っていいなあと思ったことや友達としてどうしてあげるべきだろうと悩んだことがありますか。
2. あなたは親友がいますか。どんな人ですか、話してみてください。

赤川次郎

麻子のコンプレックスの一つは、走るのが遅いことだった。だから、運動会が近づくとゆううつになり、前の日になると食欲がなくなり、当日はお腹が痛くなる。決まってそのパターンだった。でも、母親は、そんなことで運動会を休ませてはくれないかった。

「嫌だなあ、徒競争。」と麻子は言った。

「麻子、何組目。」と知美がきいた。

知美は、クラスでもトップを争う足の持ち主だった。

「五組目。」

「じゃ、いっしょだ。」

「みじめだな。」

「いいじゃない、別に。」

「速いから言えるのよ。知美は。」

「ほかはだれ。」

麻子は、指を折って数えた。比較的足の速いのがそろっている。

「びりは確定的よ。」と、麻子はため息をついた。胃が痛む。

「そうねえ…。」

知美とて、客観的にみて、麻子がいちばん遅いにちがいないことは認めざるをえなかった。

「どうせなら、早く済んでくれないかしら。」と麻子は言った。

失敗するにも、上手に失敗できる人間がいる。なまじうまくやるよりも、みんなのかっさいを浴びるような。でも、麻子はちがう。一生懸命にやるのだが、失敗する。それも本人がみじめに落ち込んでしまうから、まさにみじめな失敗という印象をあたえるのだ。

不公平だ、世の中って。麻子は、ずいぶん幼いころからそう思ってきた。ろくに努力しなくても、いつもクラスの中心的存在になる子もあれば、なんとか仲間になろうとごちない努力を続けて、結局笑われて終わる、自分のような子供もいる。

頭もよくて、足も速くて、人気もある。知美はそんな子だった。それでいて麻子と親しかったのは、何にでもどじな麻子の前では、知美も気取る必要がなくて気が楽だったのかもしれない。早く終わらないかなあ。また、よりによって徒競走というのは、午前の部のラストにある。朝早いうちにやってくれば、家の人だってまだそんなに大勢来ていないのに。

麻子には、みんなが寄ってたかって自分に恥をかかせようとしているのだと思った。いつもはろくに口もきかない仲の悪い子に、ただ自分と同じくらい走るのが遅いというだけで、親しげに声をかけてみたりする。そんな自分に、ますます嫌気がさしてしまう。

早く終われ、いつまでも来るな、と矛盾した願いを唱えたり、急に大雨になって中止にならないかしら、と青空を見上げてむなしい期待をいだいたり。でも、結局はやって来てしまうのだ。

入場行進、拍手、応援合戦。

あの声援というやつが、麻子は苦手だった。失敗したり、びりになったりすると、すごく悪いことをしたような罪悪感におそわれるからだ。どうしてみんな、好き勝手なことをしてくれないのかしら。こっちのことなんか、ほっといてくればいいのに。

第一の組がスタートする。第二、第三…。あつという間に、麻子はいちばん前の列になっていた。もう前にはだれもいない。

八十メートルの空間が、とてつもなく遠く長く見える。

「麻子、がんばって。」と、知美が声をかけてくれる。麻子は笑顔を返すけれど、それはもう、こわばって泣き顔に近い。

前の組がゴールインして、ワーッと歓声があがる。

さて、次だ。麻子は立ち上がって、おしりの砂をはらう。八十メートル。たった八十メートルだ。同じ人間が走るんだもの。そんなにちがうわけがない、と自分に言い聞かせる。そうだ。必死で走ったら、わたしだって…。

「用意。」

先生がどなる。麻子は少し腰を低くして、かけだす姿勢をとる。

バン、とピストルが鳴った。そんなに出だしは悪くなかった。でも見る見るうちに、ほかの子たちが前へ出て行く。

やっぱりだめか。せめて、みっともなくないくらいの差でゴールへ入りたい。

でも、だめなのだ。足を速く動かすと、もつれそうになる。

知美はぐんぐんほかの子を引きはなしていた。圧倒的に速い。麻子は圧倒的に遅い。

すると急に、思いがけないことが起こった。知美がころんだのだ。ワーッとみんながいっせいに叫んだ。ワーッと前のはりから、一転してしまった。それから立ち上がって、また走り出す。

でも、たった八十メートルしかないのだ。一度転んだら、いくら知美でも、もう取り戻せない。それでも、知美は麻子より少し早くゴールに入った。そして最後が麻子。

「ああ、失敗しちゃった。」

知美は、息をはずませながら言った。

「だいじょうぶ、知美。」と麻子はハアハアあえぎながらきいた。

「うん、なんともない。まっ、いいや。リレーじゃがんばるから。」

知美は、ううんとのびをした。

麻子は、知美がわざと転んでくれたのだと分かった。だって、そうでもなければ、本当に必死で走っていて転んだのなら、ひざくらいすりむくに決まっている。怪我一つしていないってことは、ちゃんと分かっている転んだのだ。

知美が、麻子の肩を抱いた。

「だいじょうぶ。もうお昼ね。いっしょに食べようよ。」

麻子が、走ったあとよく貧血を起こすので、心配しているのだ。

「うん。」と、麻子はうなずいた。

二度言った。感謝の思いを表したのだ。

もちろん、ここに、教訓めいた批判を加えることだってできる。わざと転んでやるのが、本当の友情といえるのかとか、人間にはもっと大切なことがあるのだと考えさせるのが本当だとか...

でも、麻子はうれしかったのだ。それが肝心なことで、そして、ほかに何があるだろう。とにかく、麻子はうれしかったのだ。

中学校国語科用『国語 1』光村図書、平成 13 年

I. 質問

1. 麻子と知美はそれぞれどんな性格の人ですか。なぜ親友になりましたか。
2. 二人に共感したところ、疑問をもったところを話してください。
3. 知美はなぜわざと転んだのですか。

II. 課題

「親友」を読んで、「友情」について4百字以内にまとめてください。

単語

あさこ①①	麻子[人名]	麻子
コンプレックス④	complex[名]	自卑感
ゆううつ①	憂鬱[ナ形]	忧郁
とうじつ①	当日[名]	当天
パターン②	pattern[名]	样子, 模式
ときようそう②	徒競走[名]	赛跑
ともみ①	知美[人名]	知美
トップ①	top[名]	第一名, 首位
もちぬし②	持ち主[名]	物主, 所有者
びり①	びり[名]	倒数第一
ためいき③	ため息[名]	叹气
なまじ①	なまじ[副]	倒不如
かつさいをあびる①+①	喝采を浴びる[連語]	赢得喝彩
おちこむ③	落ち込む[自動1]	意志消沉
ふこうへい②	不公平[ナ形]	不公正, 不公平
ぎこちない④	ぎこちない[イ形]	不灵活; 生硬
どじ①	[名・ナ形]	失败, 差错; 草率
きどる①	気取る[自動1]	装模作样
はじをかく②+①	恥をかく[連語]	出丑, 丢人
おもえる③	思える[自動2]	总觉得
くちをきく①+①	口を利く[連語]	说话
いやげがさす①+①	嫌気が差す[連語]	厌烦
むじゅん①	矛盾[名]	矛盾
となえる③	唱える[他動2]	念; 祈祷
ちゅうし①	中止[名・他動3]	中止, 停止
みあげる①③	見上げる[他動2]	仰望
むなしい③	空しい[イ形]	徒然, 徒劳
にゅうじょう①	入場[名・自動3]	入场
こうしん①	行進[名・他動3]	(列队)行进
かつせん①	合戦[名]	交战
せいえん①	声援[名・他動3]	呐喊助威
ざいあくかん④③	罪悪感[名]	罪恶感
とてつもない①	途轍もない[イ形]	出奇, 出人意料

基础日语(四)

こわばる③	強張る[自動 1]	发硬,变僵硬
ゴールイン③	goal in[和製語]	跑到(冲过)终点
かんせい⑩	歓声[名]	欢呼声
いいきかせる⑤	言い聞かせる[他動 2]	说给……听
ひっし⑩	必死[ナ形]	拼命
どなる②	怒鳴る[自動 1]	大声喊叫;厉声训斥
かけだす③⑩	駆け出す[自動 1]	跑起来,开始跑
ピストル⑩	pistol[名]	枪
でだし⑩	出だし[名]	开头
みるみるうちに①	見る見るうちに[副]	转瞬间,不大工夫
もつれる②	縛れる[自動 2]	(手、脚)不听使唤
ぐんぐん(と)①	「副」	很快地,迅速地
ひきはなす④	引き離す[他動 1]	拉开距离;拉开
あつとうてき⑩	圧倒的[ナ形]	压倒的,绝对的
おもいがけない⑤	思いがけない[イ形]	令人意想不到的
いっせいに⑩	一斉に[副]	同时,一齐
まえのめり③⑩	前のめり[名]	向前倾倒,前倾
いってんする⑩	一転する[自動 3]	一变
たちあがる④⑤	立ち上がる[自動 1]	站起来
はしりだす④	走り出す[自動 1]	开始跑
いきをはずませる①+⑩	息を弾ませる[連語]	上气不接下气
あえぐ②	喘ぐ[自動 1]	喘气;挣扎
なんともない④	「副」	怎么也(不);实在
リレー⑩	relay[名]	接力赛
のびをする②	「連語」	伸懒腰
すりむく③	擦りむく[他動 1]	蹭破,擦破
ひんけつ⑩	貧血[名]	贫血
うなづく③⑩	頷く[自動 1]	点头

言葉の使い方

決まって

そうと決められたようにその事が行われたり、そのような状態になることを表す。

- 1) 私の両親は毎朝決まって散歩する。
- 2) 雨が降る前には決まって腰が痛くなる。
- 3) あの人は決まって月初めにやってくる。
- 4) 彼女はお正月に決まってスキーとする。

好き勝手

何物にも束縛されず、自分の好きなように行動する様子。

- 1) 彼女は好き勝手なことばかり言う。
- 2) お前の好き勝手にはさせないぞ。
- 3) 好き勝手に行動すると、人に迷惑をかけるから、やめてほしい。

よりによって

もっといいことがいくらでもあるのに、最も望ましくない事態にぶつかったという、話し手の心情を表す。

- 1) よりによって大晦日に泊り客が来た。
- 2) よりによって恋人に電話をしているところを上司に聞かれてしまった。
- 3) よりによって帰国する直前に、病気になった。

よってたかつて

大勢の人が何かを中心に囲むようにして集まって何かをする様子を表す。

- 1) 気に入らないからといってよってたかつていじめてはいけない。
- 2) 広場で人々がよってたかつて議論している。
- 3) 講義のあと、みんなはよってたかつて自分の意見を言っている。

恥

名誉を失うことやはずかしいことの意味で使う。

- 1) そんな悪いことをして恥だとは思わないのか。
- 2) もう大学生だから、こんなやさしいことが分からないと恥になるよ。
- 3) みんなの前で恥をかかないように、一生懸命に練習する。
- 4) 「旅の恥はかき捨て」とはいうが、旅行中に何をしてもよいというわけではない。
- 5) 「恥を知れ」とは名誉を大切にしろという意味である。

あつという間に

非常に短い間に何かをしたり、状態が変化したりする様子を表す。

- 1) 時間のたつのは速いものですね。帰国してあっという間に10年になりました。
- 2) 彼女は仕事がよくできる人だ。あっという間に全部片付けた。
- 3) 二人は真剣に話し合っていたので、あっという間に時間が過ぎてしまった。

とてつもなく

まったく理屈に合わないほど程度の高かったり低かったりする様子を表す。

- 1) 彼がとてつもないことを言い出したので、人々は驚いた。
- 2) 新しい市長はとてつもなく大きな計画を立てた。
- 3) 彼女は借金までして、とてつもなく豪華な家を買った。

見る見るうちに

何かを見ていると短時間の間に急激に変化することを表す。

- 1) 今日はたくさん取れたので、見る見るうちに船は魚でいっぱいになった。
- 2) みんなで掃除をしたので、部屋は見る見るうちにきれいになった。
- 3) 見る見るうちに火は燃え上がった。
- 4) 小雨だったのに、見る見るうちに大雨になった。

なんともない

「たいしたことはない」、「たいしたことだとは思わない」という意味で、特に取り上げて言うことではないという気持ちを表す。

- 1) 「顔色が悪いようですけど。」「いいえ、なんともありません。ちょっと気分が悪いだけです。」
- 2) 慌ててうっかり転んでしまったが、なんともなかった。
- 3) 自転車にちょっとぶつかったが、痛くもなんともなかった。
- 4) 「さっきはあんなことを言ってごめんなさい。」「いや、別になんとも思っていないよ。」
- 5) さっきうっかりしてパソコンを床に落としてしまった。なんともなければよいのだが。

かんかん

① 日の光が強く照る様子 ② 非常に強く怒る様子 ③ 炭の火が勢いよく起きている様子 ④ 鐘などのかたいものがぶつかったときに出る高い音

- 1) 夏の日がかんかん照っている。
- 2) 父がかんかんになって、怒っている。
- 3) ひばちの火がかんかんにおこっている。